

ワシントンで働く女性の会(J-WIP)第22回 活動報告

企画担当理事:森下 由季子

2023年6月27日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIPによる第22回目のスピーカーイベントを開催致しました。講師としてお迎えしたのは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)ワシントンD.C.事務所副所長の鶴見晴子さん。小児科のお医者さまであると同時に2人のお子さんのお母さま、ワシントンには2021年11月より赴任されています。30人の参加者をお迎えし、今回のテーマ「人生100年時代、生き活きと女性を支援するためのライフコースアプローチ」についてご講演いただきました。



会場の雰囲気



鶴見さん

AMED(エーメド)は、2015年4月に設立された国立研究開発法人で、基礎から実用化までの一貫した医療研究開発の推進とその成果の円滑的な実用化を目指す、いわば日本の医療分野の研究開発および実用化における司令塔機能を担っています。これまで文部科学省・厚生労働省・経済産業省が独自に行っていた研究開発を一元的に実施し、研究から臨床まで迅速・円滑な橋渡しを行っています。ワシントン

ンD.C.事務所は、2016年11月に開設。米国国立衛生研究所(NIH)をはじめとする医療関係研究機関との連携強化、研究開発動向、政策情報の収集・分析、人的ネットワークの構築等の活動を行っておられます。

鶴見さんは、医科大学を卒業後、20 以上の病院やクリニックの小児科で勤務されている中で、「日本の小児医療は世界最高水準であるが、子供の Well-Being (肉体的・精神的・社会的に良好な状態)は年々低下、少子化は加速する一方、このままでいいのか」という壁にぶつかった経験、女性の健康と子供たちの幸せに向けたライフコースに関する研究・事業を立ち上げなど、多岐にわたり、深くお話をいただきました。

日本の低出生体重児の割合は OECD 加盟国の中でトップ(9.5%)という事実。若年女性の BMI(肥満度を示す体格指数)の低下、メンタルヘルスの課題など、日本の現状・課題を多くのデータと数字を用いてわかりやすく教えていただくと同時に、女性の健康課題について、予防・治療に資する研究やがん予防、健康寿命を延ばすヒントもたくさんいただきました。

特に QA セッションでは、組織の上層部がすべて男性である現実、乏しい危機感、子供たちを孤独から守るためにも多様性の受容、アメリカから学ぶメンタリングの大切さ、米国でみられる自殺する子供の増加、日本の若い女性や子供たちの支援、母親への見えない圧力、日本社会の閉塞感、日本の教師の多忙な生活、求められる妊婦へのサポート、パートナーシップの醸成等、数えきれないほどの質問、意見が飛び交い、鶴見さんからの心強いアドバイスに加え、参加者の経験を理解・共有する場にもなりました。

今回、鶴見さんの日本の女性、子供たちを医療の立場から幸せにしていくのだという強い志に魅せられた参加者も多かったと思います。新生児医療、学校給食では世界一を誇る日本。ワシントン DC にいるからこそ世界に働きかけるチャンスを見出し、いつまでも私たちが生き活きと前向きな気持ちで過ごす大切さを学ぶ素晴らしい機会となりました。

※J-WIP (Japanese Women in the Professions in Washington DC)

ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016 年 1 月からワシントン日本商工会として支援。



鶴見さん(中央)を囲む集合写真